

R7年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 太陽福祉会	代表者	鹿野勇	法人・ 事業所 の特徴	ご利用者の笑顔を大切に楽しみや役割、生きがいを支援できるよう日々努めています。通いを中心に訪問、宿泊のサービスを調整し、個々にあった柔軟なサービス提供に努めています。また、「私らしく」を合言葉にゆったりとした流れの中でスタッフが関わりをもち、事業所でも自宅でも一人ひとりの生活、時間を大切にこれまでの暮らしが継続できるよう支援しています。運営推進会議を活用しながら、地域の一員として地域行事やイベントに参加し、地域の活性化活動・地域貢献活動の取り組みを行っています。
事業所名	小規模多機能型 居宅介護施設 川上ふれあいの家	管理者	木内裕子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	1人	人	人	3人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	期初に全職員へR6年度外部評価の結果を周知し、R7年度に取り組む重点項目について把握する。サービス評価は年に1回の実施であるが、適切な自己評価が実施できるよう、月に一度振り返る機会を設ける（部署の勉強会と連動させる）。	R6年度外部評価の結果及びR7年度の重点項目については、期初に全職員へ回覧した。期の途中で異動配属された職員への周知は対応できていない。取り組みは日々の活動やケアと連動させ、ミーティングや部署研修を通して振り返りを行った。	経験年数や立場、役割が違う中でも、職員各々が真剣に振り返り、更に良くしていこうという自己評価をして頂いていると感じた。評価の集計は単純に可否を論じるのではなく、職員が自身の仕事に向き合っている結果だと思う。	事業所のサービス・ケアの質を高めるためには、適切なアセスメント及び本人の意欲やエンパワメントを高める必要がある。科学的介護の取り組みを活用し、3ヶ月に1回担当職員がモニタリング・ヒアリングを行う。ご家族へ話を聞く機会を作る。
B. 事業所のしつらえ・環境	下記の環境整備を行う。 ① 事業所ウッドデッキの修繕 ② 園庭、中庭の樹木の剪定 ③ 定期的な園庭の草刈り、溝掃除 ④ 四季を通じた花壇づくり ⑤ 年間計画に基づいた菜園活動 ※可能な限り、ご利用者と協働作業をする	下記の環境整備を行った。 ① 事業所ウッドデッキの撤去 ② 園庭の樹木の剪定、伐採 ③ 定期的な園庭の草刈り、溝掃除、落ち葉拾い ④ 四季を通じた花壇づくり ⑤ 四季を通じた菜園活動 ※④⑤は可能な限りご利用者と協働した	事業所内、外ともに明るく清潔に維持されている。 運営推進会議や家族会に参加させてもらい、初めて事業所の中から外を眺めることができた。窓が広くて気持ちが良い。四季を感じられ、静かなのもよい。 正面玄関の引き戸（ドア）に取っ手などがあると開けやすい。	① 期初に修繕箇所を洗い出し、計画を立てて環境を整備する。 ② 四季を通じた花壇づくり、菜園活動を継続し、ご利用者と職員で協働する。 （園庭に出る機会を多くつくる）
C. 事業所と地域のかかわり	地域で開催している「ふれあい朝市」を協働開催する（川上ふれあいの家の園庭を利用し、ご利用者、ご家族、職員が参加）。地域の活動（公民館の清掃。ゴミ拾い等）へ参加する。	ふれあい朝市の協働開催は見送ったが、ご利用者と一緒に出掛け野菜苗の購入等、地域の方と触れ合う機会とした。 地域とのかかわりは、地域で福祉を学ぶ方の実習受入れや地区の	「涼やかスポット（府の事業）」のような“地域の方いつでもどうぞ”のような取り組みが出来ると良いと思うが、地域の方が事業所まで出向くには“足”（送迎）の問題があるというのは確かにその	① 地域の活動（公民館の清掃、ゴミ拾い等）に参加する。 ② 地域のサロンへ参加を試みる（地域で暮らす高齢者のニーズを拾い上げる）

		老人クラブの皆様との協働行事、地域へドライブや外出に出かける等を行った。地域の老人会や秋祭り、イベントにも積極的に参加した。	通りだと思ふ。また、地域の方のニーズにマッチしているのかという課題もある。	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	事業所には、ご利用者と地域をつなぐ役割があることを常に意識し、在宅生活を支える一つとして地域資源を活用する。これまで地域でどのように暮らしてこられたか、現在どのような繋がりがあるか、支援を通じて理解する。	ご利用者の在宅生活状況に応じて、必要な地域資源（配食弁当、散髪、送迎車両等）を活用している。これまでの暮らしや地域とのつながりは、本人や家族から聞き把握するように努め、つながりが途切れない支援を意識した。	数年前から敬老会にも行けなくなっており、事業所での行事はとても良い気分転換になっている。地域で生活し、自助・共助で頑張ってきた地域のつながりが、途切れないような支援につなげて欲しい。利用者から直接「地区のサロンに行く」という情報を得ることもある。事業所に来ていただくという視点だけではなく、出向いていくという姿勢も大切にしたい。	独居、老々世帯、日中お一人で過ごされるご利用者を中心に、自宅での過ごし方、地域とのつながりを本人及びご家族へヒアリングする。内容は全職員で共有する。  【センター方式 A-4：基本情報（私の支援マップシート）】を活用する
E. 運営推進会議を活かした取組み	家族会の日にあわせて運営推進会議を開催し、出席者とご家族の情報共有、意見交換を行う。事業所管理者やケアマネジャー以外の職員も参加する。	7月の家族会では、午後に運営推進会議を行い、出席者と家族の皆様で情報共有、意見交換を行った。在宅介護の苦労や悩み、心配、不安等を共有し、管理者やケアマネジャーだけでなく一般職員も家族の思いの一端を知ることができた。	運営推進会議では、毎回利用状況や活動内容、事故報告など分かりやすく説明して頂いている。事業所の状況や取り組みを伝えることで、サービスの利用につながることもあり情報の開示、周知の場として効果を実感している。一方で、会議で出た意見がどのように改善等につながっているのかは分かりにくい。	① 運営推進会議の報告内容、検討内容等を見直す（現況フォーマット等）。 ② ご利用者本人や複数のご家族に参加していただく機会を作る。
F. 事業所の防災・災害対策	運営推進会議の日に災害訓練を計画し、事業所で実施している訓練の内容や職員の動きについて周知を図る（ご家族にも参加を促す）。	第3回運営推進会議（10/28）にて「京丹後市避難確保計画に係わる避難訓練の実施」（BCPの共有）を実施した。川上地区のハザードマップで周辺の水害、土砂災害、津波被害の確認を行い、避難場所や危険個所の共有をした。地域の避難所の状況（スロープの有無、トイレの形態等）も確認。	災害はいつ発生するか分からないため、日中・夜間ともに想定した訓練をするのは良い。津波も土砂災害もハザードマップには該当しない所在と聞いて安心した。訓練は有事が起こった場合に活かせるものであるようお願いしたい。地域に福祉拠点があるのは心強い。	9月に実施している事業所の消防訓練（夜間想定）に運営推進会議の出席者に参加いただき、防災の取り組みについて共有する。

